

がん治療中は特に注意： 化学療法と糖尿病性神経障害から足を守る

抗がん剤の中には、手のひらや足の裏の皮膚が乾燥したり、厚くなったり、ひび割れたり、水ぶくれができたりするものがあります。足の爪が変色し、肥厚してもろくなる。足の爪が巻き爪になり、痛みを伴う。感染症になりやすく、感染症のために抗がん剤治療を中断しなければならないこともあります。糖尿病の方と同じように、足の感染症は足の潰瘍につながり、切断の必要性が出てきます。

化学療法剤の一種で、特定の細胞間シグナルを抑制して腫瘍の成長を止める。例えば、マルチキナーゼ阻害剤は、多くの皮膚変化を引き起こす可能性があります。化学療法でよくみられる副作用には、発疹、皮膚の変色、乾燥肌、手足症候群などがあります。手足症候群は、手掌足底紅斑性感覚障害または PPE としても知られ、化学療法薬への曝露によって引き起こされ、水疱のほか、日焼けに似た赤くはれた発疹を引き起こす可能性があります。PPE は、手や足など血液が溜まりやすい部位に発症します。化学療法中に細い血管から薬剤が漏れ出しやすくなる可能性があります。

化学療法開始後 1～2 週間以内に、手足のしびれや痛みを感じる場合があります。を感じる場合があります。数日のうちに、手のひらや足の裏に赤みが出てくることもあります。この反応は、痛みで日常生活に支障をきたす程度で止まることもあれば、水疱や爪甲の下に液体がたまって非常に痛むように進行することもあります。最終的には、足の爪が変色し、厚くなり、もろくなり、足の爪の真菌感染症に似ています。水泡や痛みを伴う爪ができた場合、主な治療法は適切な傷のケアです。もちろん、かかりつけの医師に相談してください。毎日患部をチェックし、刺激の少ない石鹸と水で洗い、保護用の靴下と靴を履き、開いた患部は適切なドレッシングで覆っておく必要があります。もちろん、まずは医師に症状を相談し、足病医や創傷治療の専門

医を紹介してもらい、治療してもらうことが大切です。私自身は、プレドニゾンやステロイド外用薬を使用していますが、これはこの症状に効果があります。乾燥肌も化学療法の副作用としてよくみられるものです。これは軽度から重度まであり、皮膚潰瘍を引き起こさない場合もあります。このような症状や、足を危険にさらす可能性のあるその他の合併症を予防するにはどうしたらよいか、担当の医師に尋ねてみてください。適切なフットケアが鍵になります。足を洗うときは、やさしい洗剤で洗うとよいでしょう。固形石鹸は、液体石鹸に比べて、防腐剤や香料などの刺激物が少ないのが一般的です。アルコール、ヨウ素、過酸化水素など、肌に刺激の強い化学物質は、肌に異常がある場合は使用しないようにしましょう。肌に優しい洗顔料は、肌に住んでいる細菌を殺すので、肌がそのままの状態なら抗菌石鹸を使う必要はないでしょう。刺激の強い石鹸は避けてください。クレンジング後、肌を十分に乾かします。タオルや冷たいドライヤーを使い、足の指の間の皮膚も忘れずに乾かしてください。ここは、真菌や細菌が最も多く繁殖する場所です。次に、保湿剤を塗布します。ワセリンなどのワセリンは、安価で肌にやさしいのでおすすめです。足の皮膚が厚い場合は、乳酸や尿素を使って皮膚の角質を取り除く働きのある角質溶解性保湿剤を使用します。アムラクチン、ケララック、ユーセリンがこのような働きをします。化学療法中の足の状態を維持するためには、予防が常に最善です。足の皮膚が壊れ始めたら、合併症を避けるために、すぐに医師に相談し、治療を受けてください。